

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【道祖土小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。一方で、個人差が大きいことから「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組ませることを来年度も継続していく。また、次年度の学力向上目標としては、国語では、「言葉の特徴や使いに関する事項」、算数では「数と計算」を全学年で重点的に取り組み、R8年度の全国学力・学習状況調査等で検証したい。
思考・判断・表現	国語では、「話すこと・聞くこと」に今年度も課題がみられた。来年度、国語に限らず、話し合い活動がたまたまの意見共有で終わらせないように、児童が、自らの学びを広げ深めるための協働学習の在り方についても学校課題研究とあわせて考えていく。児童が自分の考えをもち、伝え合う活動や説明する場面、発表する場面を意図的に設定し、その際、児童が思考したプロセスを確実に評価することを今後も継続していく。さらに、教科横断的な視点として、グラフ等の資料を用いる際、資料の見方を高めていく意図的な発問を教師が意識して授業を展開していく。そして、各教科の授業で、根拠資料を基に、自己の考えをまとめ、発表する活動も引き続き重視していく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」 算数「数と計算」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を、充実させていく必要がある。</p>	<p>授業の最初に前時等の学習を振り返り、その内容を生かして本時の課題を設定する【毎時間】。 基礎・基本を定着させるために、「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【効果的な習熟の時間の設定】。その際、児童自身が個別に自分の課題を把握する時間を設定する【単元ごとの実施】。</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」 算数・社会・理科等「グラフ等の資料の読み取り方」 <指導上の課題> 目的意識や相手意識を明確にして、自己表現する必要がある。</p>	<p>児童が自分の考えをもち、伝え合う活動や説明する場面、発表する場面を意図的に設定する【単元ごとの実施】。その際、評価の観点を示し、児童が思考したプロセスを確実に評価する【毎回実施】。グラフ等の資料の読み取りを教科横断的な視点で指導を重ね、習熟を図る【単元ごとの実施】。</p>

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	「ドリルパーク」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組ませることができた。その際、自分の課題を設定した上で、学習に取り組むことができた。国語では、年度当初に課題とした「言葉の特徴や使いに関する事項」が、市や全国の平均正答率と比較すると学年によって差はあるものの、学校全体として上回る結果となった。算数では、年度当初の課題とした「数と計算」で、市の平均正答率を下回っている学年が結果としてみられた。
思考・判断・表現	B	児童が自分の考えをもち、伝え合う活動や説明する場面、発表する場面を意図的に設定した。またその際、評価の観点を示すことで、児童は明確な目標を具体的にイメージしながら発表することができている。国語では、「話すこと・聞くこと」に、今年度も課題がみられた。「グラフ等の資料の読み取り方」では、今年度も課題がみられた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>国語における本校の結果は、評価の観点において埼玉県平均・全国平均と比較すると、ともに上回る結果となった。昨年度、課題が見られた「情報の扱い方に関する事項」においても、埼玉県平均・全国平均と比較しても上回ることができた。ただし、「言葉の特徴や使いに関する事項」では、埼玉県平均・全国平均をともに下回る問題も見られた。今後も漢字の確実な習得ができるように、繰り返しの指導と習熟の時間を確保していく。</p> <p>算数における本校の結果は、評価の観点において埼玉県平均・全国平均と比較すると、ともに上回る結果となった。今年度、本校が課題ととなっていた「数と計算」においては、埼玉県平均・全国平均をともに上回る結果となった。一方で、「図形の知識を問う問題」では、埼玉県平均・全国平均を下回る結果も見られた。今後も基礎・基本を定着させるため、反復・習熟の活動を取り入れていく。</p> <p>理科における本校の結果は、評価の観点において埼玉県平均・全国平均と比較すると、ともに上回る結果となった。「地球」を柱とする領域では、埼玉県平均・全国平均を下回る問題が見られた。</p>
思考・判断・表現	<p>国語における本校の結果は、評価の観点において埼玉県平均・全国平均と比較すると、ともに上回る結果となった。ただし、話すこと・聞くことにおいては、埼玉県平均・全国平均を下回る結果の問題も見られた。話し手の考えと比較しながら、自分の考えがまとめられるように、国語に限らず教科横断的に話し合い活動を意図的に取り入れていく。</p> <p>算数における本校の結果は、評価の観点において埼玉県平均・全国平均と比較すると、ともに上回る結果となった。ただし、無解率が埼玉県平均・全国平均を上回る問題も見られ、児童の実態が二極化している状況が推測される。今後も児童の実態を把握し、個に応じた指導を充実させていく。</p>

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>国語における本校の結果では、評価の観点においてさいたま市平均と比較すると、3年から6年まで全ての学年において上回る結果となった。今後も意図的に、基礎・基本を定着させる活動を継続して取り入れていく。</p> <p>算数における本校の結果では、評価の観点においてさいたま市平均と比較すると、上回る学年と下回る学年があった。下回った学年の結果で共通している課題は「数の減法の計算をすることができず、(数や量)の互換性について理解している」という点であった。算数では系統性を重視した指導と、理解・基本を定着させる活動を、意図的に取り入れていく必要がある。</p> <p>社会における本校の結果は、算数と同様、評価の観点においてさいたま市平均と比較すると、上回る学年と下回る学年があった。特に平均正答率の低かった設問で共通している課題は、「資料の読み取り」であった。教科横断的な視点を取り入れながら、社会に限らず、図表において資料を正確に読み取る活動を、意図的に実施していく必要がある。</p> <p>理科における本校の結果は、算数・社会と同様、評価の観点においてさいたま市平均と比較すると、上回る学年と下回る学年があった。特に平均正答率の低かった設問で共通している課題は、「電気の通り道や回路」ということを理解している。」(エネルギー)であった。昨年度と課題が同様であることから、体験活動も取り入れつつ、継続して基本的な問題を習熟していく必要がある。</p>
思考・判断・表現	<p>国語における本校の結果では、評価の観点においてさいたま市平均と比較すると、3年から6年まで全ての学年において上回る結果となった。しかし、その中でも「話すこと・聞くこと」の領域において、複数学年で課題がみられた。「相手に伝わるように話の構成を考える」ということができるように、意図的に指導していく必要がある。</p> <p>算数における本校の結果では、評価の観点においてさいたま市平均と比較すると、上回る学年と下回る学年があった。領域については「測定」や「変化と関係」などに課題がみられた。「知識・技能」と同様に、算数では系統性を意識した指導と、継続して基礎・基本を定着させる活動を意図的に取り入れていく必要がある。</p>

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	授業の最初に前時等の学習を振り返り、その内容を生かして本時の課題を設定することができた。 基礎・基本を定着させるために、「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことができた。その際、児童自身が個別に自分の課題を設定し、学習に取り組むことができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	児童が自分の考えをもち、伝え合う活動や説明する場面、発表する場面を意図的に設定し、その際、評価の観点を示すことができた。 グラフ等の資料の読み取りを教科横断的な視点で指導を重ね、習熟を図ることができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【道祖土小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。一方で、個人差が大きいことから「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組ませることを来年度も継続していく。また、次年度の学力向上目標としては、学校全体として、課題となっている、「言葉の特徴や使い方に関する事項」を全学年で重点的に取り組み、R7年度の全国学力・学習状況調査等で検証したい。
思考・判断・表現	国語では、「話すこと・聞くこと」に今年度も課題がみられた。国語に限らず、児童が自分の考えをもち、伝え合う活動や説明する場面、発表する場面を意図的に設定し、その際、児童が思考したプロセスを確実に評価することを今後も継続していく。さらに、教科横断的な視点として、グラフ等の資料を用いる際、資料の見方を高めていく意図的な発問を教師が意識して授業を展開していく。そして、各教科の授業で、根拠資料を基に、自己の考えをまとめ、発表する活動も引き続き重視していく。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	〈学習上の課題〉国語では、「言葉の使い方や文法」「漢字」などの基礎的な内容に課題がみられた。算数では、主に「数と計算」に課題がみられた。 〈指導上の課題〉児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が、十分でないことが考えられる。	⇒ 基礎・基本を定着させるために、「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【効果的な習熟の時間の設定】。その際、児童自身が個別に自分の課題を把握する時間を設定する【単元ごとの実施】。
思考・判断・表現	【学習上の課題】国語では、「話すこと・聞くこと」に課題がみられた。算数では、「変化と関係」や「データの活用」に課題がみられた。 【指導上の課題】児童が、目的意識や相手意識を明確にして、自己表現する必要がある。	⇒ 児童が自分の考えをもち、伝え合う活動や説明する場面、発表する場面を意図的に設定する【単元ごとの実施】。その際、評価の観点を示し、児童が思考したプロセスを確実に評価する。【毎回実施】

全国学力・学習状況調査
<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組ませることができた。その際、自分の課題を設定した上で、学習に取り組むことができた。国語では、「言葉の使い方や文法」「漢字」などの基礎的な内容に課題がみられたが、市や全国の平均正答率と比較すると学年によって差はあるものの、学校全体として上回る結果となった。算数では、主に「数と計算」に課題がみられたが、市や全国の平均正答率と比較すると学校全体として上回る結果となった。
思考・判断・表現	B	児童が自分の考えをもち、伝え合う活動や説明する場面、発表する場面を意図的に設定した。またその際、評価の観点を示すことで、児童は明確な目標を具体的にイメージしながら発表することができている。国語では、「話すこと・聞くこと」に今年度も課題がみられた。算数では、「変化と関係」には課題がみられ、「データの活用」には市の平均正答率を上回るなど、改善がみられた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	・国語における本校の結果は、評価の観点において埼玉県平均・全国平均と比較すると、ともに上回る結果となった。ただし、「情報の扱い方に関する事項」が埼玉県平均・全国平均とともに下回る結果となった。具体的には、情報と情報との関係の仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかに課題がみられた。考えをより明確なものにしたし、思考をまとめる活動や、今後継続していく。 ・算数における本校の結果は、評価の観点において、埼玉県平均・全国平均と比較すると、ともに上回る結果となった。ただし、知識・技能を問う問題の半数以上(9問中5問)で、埼玉県平均・全国平均よりも高い無解答率の結果となった。引き続き習熟学習を確保しながら、学びに向かうために必要な技能面の定着を心掛けていきたい。	
思考・判断・表現	・国語における本校の結果は、評価の観点において埼玉県平均・全国平均と比較すると、ともに上回る結果となった。また昨年度、本校の課題となった「話すこと・聞くこと」の項目では、改善がみられ、その設問も正答率が高い結果となった。一方で全国でみられた課題と同様、事実と感想、意見との区別が明確でないなど、自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫に課題がみられた。また人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えて書くことができるかどうかを見る問題にも課題がみられた。 ・算数における本校の結果は、評価の観点において、埼玉県平均・全国平均と比較すると、ともに上回る結果となった。ただし、思考・判断・表現を問う問題の半数以上(7問中5問)で埼玉県平均・全国平均よりも高い無解答率の結果となった。国・算・子、子どもが主体となって学習を進めていく学習過程の改善が必要であろう。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	・国語における本校の結果の中で、課題として共通の内容は、「漢字を正しく書くこと」「文の中の主語と述語の関係を理解することができる」である。今後も継続して基礎・基本を定着させる活動を意図的に取り入れていく必要がある。 ・算数における本校の結果の中で、課題として共通の内容は「数と計算」の領域であった。国語と同様に算数においても、今後も継続して基礎・基本を定着させる活動を意図的に取り入れていく必要がある。 ・理科については5・6年共通して、「電気の通り道」「回路」ということを理解している。」に課題がみられるなど基本的な問題を習熟していく必要がある。	
思考・判断・表現	・国語における本校の結果は、全体的に市の正答率を上回る結果となった。しかし、その中でも「読むこと」の領域の、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することを問う問題では、どの学年でも課題がみられた。 ・算数における本校の結果は、二つの数量関係の場面と図を関連付けて考える問題の正答率が、特に課題と言える。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組ませることができた。その際、自分の課題を設定し取り組むことができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	児童が自分の考えをもち、伝え合う活動や説明する場面、発表する場面を意図的に設定し、その際、評価の観点を示すことができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)